

36型ワイドアスペクト “スーパーダイアトロンCRT”

高橋貞治*
船倉哲生*
徳永久信*

要旨

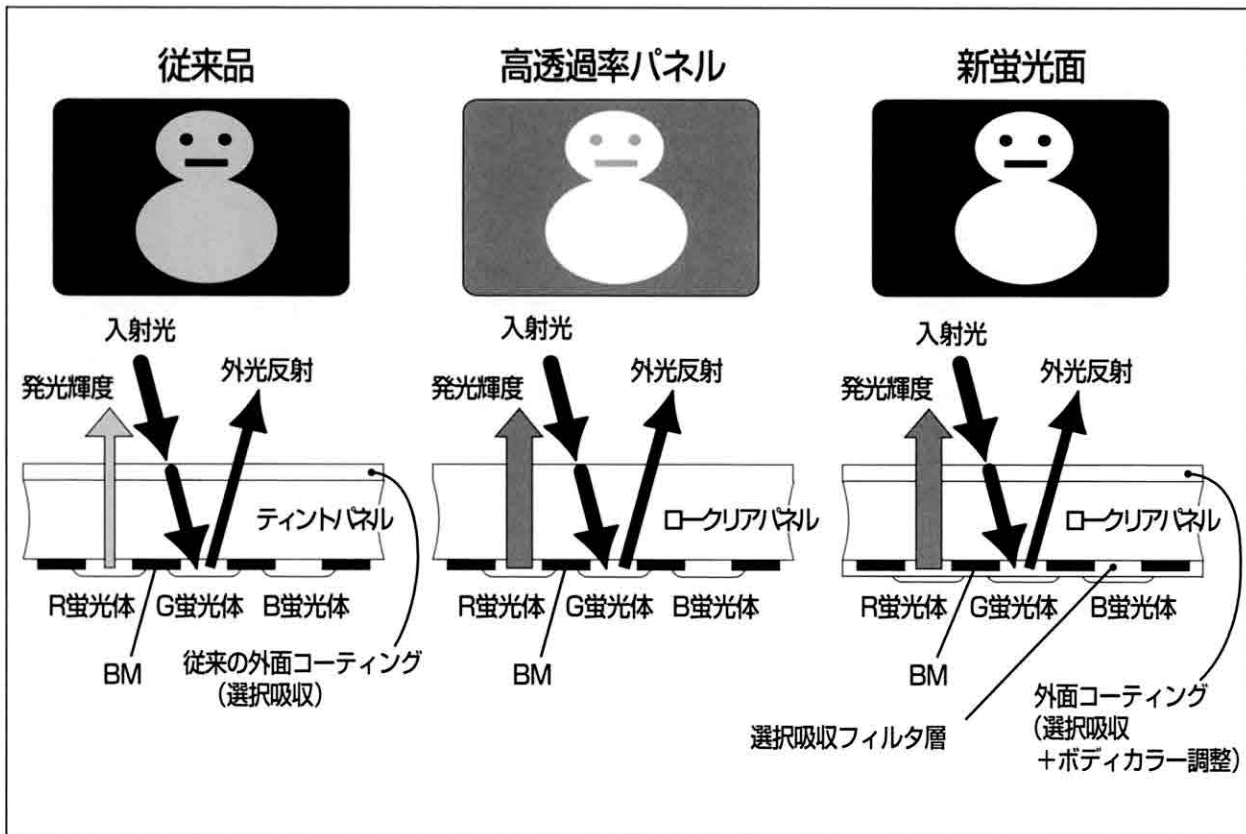
近年のカラーテレビ動向は、1985年に三菱電機が世界に先駆けて発売した37型による大画面化に始まり、ここ数年国内では、アスペクト比16:9のワイドテレビが、従来の4:3テレビに代わり、急速に普及している。

当社では20~36型までのワイドテレビを製品化しているが、この中の36型は直視型ワイドテレビとしては業界最大サイズであり、“スーパーダイアトロンCRT”を搭載した“36W-CZ10W”を'96年6月から発売しているが、市場で好評価を受け、当初の予想以上に売行きを伸ばしている。

一方、カラーテレビ用CRTは、カラーテレビ放送が始

まって以来、常に高輝度、高コントラスト、高精細化が要求されている。36型ワイドスーパーダイアトロンでは蛍光面及び電子銃に新技術を採用し、従来品を大きく上回る高輝度及び高精細化を実現した。特に輝度においては、従来比で、画面中央部30%、周辺部50%の向上を実現した。またCRTの全長についても偏向角を変更することなく短縮化することに成功し、テレビセットの奥行き短縮化に貢献している。

本稿では、これらを実現した要素技術である新蛍光面と新電子銃について述べる



新蛍光面開発概念

従来品よりも透過率の高いフェースパネルを採用し、さらに、フェースパネル内外面に波長選択吸収性フィルタをコーティングすることにより、コントラストを損なわずに高輝度化を実現した。